

**第 3 分科会**

**調査・研究**

### 第3分科会 調査・研究に関する事情聴取の集約結果

主題 一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

#### 1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無〔( )内は機関数〕

①調査・研究している(した) (49) ②予定している (1) ③予定はない (9)

(2) 研究の方法(期間)

①1年間 (21) ②2年間 (24) ③3年間 (5) ④4年間 (2)

(3) 研究の内容

【小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究】(24)

- ・ 学習障がいのある児童生徒への適切な支援の在り方について ～通常の学級及び通級指導教室における合理的配慮～
- ・ 通常学級におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する調査
- ・ 高等学校における特別支援教育推進に関する研究  
—校内研修プログラムの作成および各校のニーズに応じた活用を通して—  
高等学校における特別支援教育推進のために校内研修パッケージ(解説・研修の進め方例・ワークシート等)を提案し、各校のニーズに応じた活用役に役立つものとするものである。
- ・ 各校で効果的な校内研修会等が進められるように、従来の生徒指導や特別支援教育の枠を超えた柔軟な対応が求められている現状がある。そうした問題行動等への対応についての基本的な考え方、仮想事例のアセスメント例などの資料を作成し、提供する。
- ・ 発達障がいのある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査・合理的配慮に関する調査
- ・ 通常の学級における特別支援教育の在り方と校内支援体制の在り方・作り方
- ・ 読み書きのつまずきに対する早期発見・支援に関する学校支援について
- ・ 研究主題:学校における「合理的配慮の提供」の充実に関する研究  
副主題:関係機関との連携と発達特性を踏まえた学習支援(学習障害)
- ・ 通常学級における発達障害の特性を持つ児童生徒への支援・指導のあり方(授業のユニバーサルデザイン化)
- ・ 平成25～30年にかけて、県内6圏域の小中学校各1校を2年間ずつ研究指定校として指定して実施
- ・ 小学校の通常の学級におけるそれぞれの子どもが参加している実感・達成感を持てる授業づくり
- ・ 「インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究」～通常学級教員への障害のある子どもの教育的支援についての理解啓発(特総研指定)
- ・ 発達障がいのある児童生徒に対する早期支援事業(H27～28)  
小学校低学年における読み書きの困難さを早期発見し、通常の学級における指導方法の改善や個に応じた適切な指導のあり方を研究実践する。
- ・ 通常の学級における特別支援教育の充実として、学校全体で取り組むポジティブな行動支援の研究(スクールワイドPBS)
- ・ 通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり
- ・ 「見守りシートながさき」活用ハンドブック～発達障害等への気付きを促し支援をつなぐ～の作成(平成28～30年度)  
→発達障害等のある子どもへの早期からの適切な支援体制を構築するために、実践研究校の効果的な実践成果を発信する。
- ・ 特別支援教育に関する校内研修の充実を目指した研究
- ・ 発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業
- ・ 通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態調査
- ・ 科学的根拠に基づいた特別支援教育を学校全体として推進するための包括的システムのモデル構築
- ・ インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実(合理的配慮提供の7steps)
- ・ 学習上の支援機器等教材活用評価研究事業
- ・ 平成28年度 通常の学級における特別支援教育の考え方に基づいた授業モデルの研究Ⅱ—「主体的な学び」を促すユニバーサルデザインの授業モデルの活用を通して—
- ・ インクルーシブ教育システム構築に向けた通常の学級における学びを支える方途

#### 【特別支援学級・通級指導教室に関わる研究】(17)

- ・ 自立活動の内容を参考にした通級による指導
- ・ 特別支援教育に係る学校ニーズへの対応～「特別支援学級の手引」の改訂～
- ・ 多様な学びの場における充実した指導及び支援の実現に向けて、全ての子どもが共に活躍できる授業づくり(通常学級の担任と通級による指導担当教員との連携)
- ・ 発達障害を対象とした通級指導教室担当者の指導力向上に役立つスタートブックの検討
- ・ 社会生活を送る上で必要な力(ライフスキル)の視点を取り入れた自立活動の実践を、小・中学校と特別支援学校とが協力して研究を行う。
- ・ ICTを活用した個に応じた指導法の研究
- ・ 高等学校における通級による指導実施に向けた研究
- ・ 特別支援学級担任を対象とする教育センター研修の在り方と課題への対応に向けた取組
- ・ 特別支援学級における自立活動の指導のガイドブックを作成し、学校での実践を通して効果を検証する。検証で得られた情報を基に改善を行い、提供することで、自立活動の指導の充実を支援する。
- ・ 自立活動の指導の充実
- ・ 特別支援学級における個別の指導計画の質の向上に関する研究
- ・ 見る力や聞く力など、認知機能に困難さのある児童生徒を対象とした指導の在り方に関する研究
- ・ 通級指導教室におけるタブレットの効果的な利用
- ・ 巡回型指導の研究
- ・ 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業(通級による指導担当教員等専門性充実事業)
- ・ 特別支援学級の教育課程編成の在り方に関する調査研究
- ・ 通級による指導担当教員等専門性充実事業(H28～29)  
発達障がいに係る通級による指導の担当教員に対する研修体制を構築するとともに、必要な指導方法等について関係機関等と連携し、担当教員の専門性向上を図る。

#### 【特別支援学校に関わる研究】(14)

- ・ 児童生徒の障害の状態等に応じた自立活動の指導の在り方
- ・ 教育課程
- ・ 特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する研究(H30～31)
- ・ 平成30年度 知的障害のある生徒の望ましい人間関係を育む授業の在り方 — 「共感的人間関係を育成する」振り返りの充実を通して —
- ・ 特別支援教育における外部専門家の活用についての研究
- ・ 知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の指導の充実～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～
- ・ 的確な実態把握に基づく指導・支援の在り方に関する調査・研究—学校でのアセスメントの効果的な活用方法の検討を通して—(H28～29)
- ・ 新学習指導要領に対応した特別支援学校における授業改善に関する研究
- ・ 特別支援学校における自立活動の指導のあり方
- ・ 次世代を担う特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの育成
- ・ 平成29年度 特別支援学校における主体的な学びを促す授業づくりの在り方 — 障害特性等を踏まえた「課題発見・解決学習」の指導を通して —
- ・ 特別支援学校の教育の充実に向けて～手引きの作成を通して～(平成28～30年度)  
→特別支援学校教員を対象とした手引きの作成と活用を通して、特別支援学校の教育の充実に資する。
- ・ 自立活動の指導に係る教員の力量形成チェックシートの活用と検証(平成30～31年度)  
→実践研究校におけるチェックシートの実施・活用した自立活動の力量形成に係る取組の実践成果を発信する。
- ・ 学校における医療的ケア実施体制構築事業

【授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究】(13)

- ・「主体的、対話的で深い学び」の視点で、学識経験者の協力を得ながら、研究協力校における授業づくり支援を行い、授業改善の取組みを「授業づくりガイドブック」としてまとめる。
- ・知的障害教育における主体的・対話的で深い学びに関する研究  
通常の学級における子どもの特性に配慮した学級づくり・授業づくりに関する研究
- ・支援の必要とする児童生徒のアセスメントと授業づくり
- ・児童生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業実践 ～特性に基づいたICTの活用を通して～
- ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業改善
- ・発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業(特別支援教育の視点を踏まえた学校経営構築研究開発事業)
- ・読み書きの苦手な子どもの実態調査
- ・学校生活や授業におけるルールや手順の明確化
- ・行動支援の方法、教え方の明確化
- ・自閉症の児童生徒への指導の在り方に関する調査研究
- ・インクルーシブな学校づくりの推進に関する研究
- ・発達障がいの可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業(H29～)小学校の低学年を中心に「国語科」「体育科」における教科指導法の研究実践を行うとともに、県内各地域へ成果を発信する。
- ・通常学級と特別支援学級間の交流及び共同学習の実践的研究

【その他】(9)

- ・児童生徒一人一人への支援をさらに充実させるために、特別支援教育コーディネーターに求められる役割について調査研究を行い、指導資料にまとめることにより、各学校の特別支援教育の一層の充実に資する。
- ・特別支援教育における主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導実践に関する調査研究
- ・小・中学校におけるインクルーシブ教育システム構築のための取組ーPDCAサイクルの考えを取り入れた合理的配慮の実践ー
- ・特別支援教育にかかわる調査研究(小中高等学校・特別支援学校を含む)
- ・校内支援体制や個別の教育支援・指導計画作成、活用に関する調査
- ・出前講座を通したインクルーシブ教育システムの理解啓発に関する取組
- ・全校種におけるカリキュラムマネジメント調査研究
- ・特別支援教室の活用
- ・特性に応じた「自ら判断・行動する力」を育てる防災教育口

(4) 研究の成果の還元・活用方法(複数回答可)

- ① 発表会の実施 -(37) ② 冊子・CD等で配付 -(30) ③ ホームページで公開 -(42)
- ④ 研修に生かす -(25)

## 2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(課題を3つまで、順位づけして回答)

| 課題                | 順位 |    |    |  | 計  | 課題              | 順位 |    |    |  | 計  |
|-------------------|----|----|----|--|----|-----------------|----|----|----|--|----|
|                   | 1位 | 2位 | 3位 |  |    |                 | 1位 | 2位 | 3位 |  |    |
| ① 研究協力校、研究協力員の決定  | 15 | 7  | 3  |  | 25 | ⑥ 教員との課題意識の共有   | 13 | 7  | 14 |  | 34 |
| ② 研究協力校との連携の在り方   | 9  | 12 | 3  |  | 24 | ⑦ 校内の協力体制       | 3  | 8  | 12 |  | 23 |
| ③ 子どもの診断          | 0  | 1  | 1  |  | 2  | ⑧ 保護者の理解と承諾     | 0  | 0  | 6  |  | 6  |
| ④ 子どもの実態把握        | 5  | 7  | 2  |  | 14 | ⑨ 医療機関、相談機関との連携 | 0  | 0  | 3  |  | 3  |
| ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法 | 6  | 11 | 7  |  | 24 | ⑩ その他           | 3  | 1  | 1  |  | 5  |

その他の内容

- ・ 予算措置
- ・ 教育相談件数増加に伴う研究時間の確保
- ・ 調査・研究内容の構想
- ・ 市町村内のネットワーク構築と連携強化、人的配置等
- ・ 保護者や就学前施設等への取組の情報提供等

## 3 通常の学級における発達障害のある児童生徒の支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究

【ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりにかかわること】(17)

- ・ 小・中・高等学校における実施状況
- ・ 実施後の学習上の効果について調査分析
- ・ 多様性の尊重と学び方の違いに対応した選択的な授業内容の検討
- ・ 障害のあるなしにかかわらずすべての子どもが共に学ぶインクルーシブ教育の実現
- ・ 合理的配慮として始めた発達障害のある児童生徒に対する支援を、いかにもう一度、基礎的環境整備としてのユニバーサルデザインに変換していくか。
- ・ 本県で策定されている「やまなしスタンダード(授業づくりの7つの視点)」ともリンクさせながら、児童生徒の「困り感」に寄り添いながら、通常の学級でできる授業づくり、学級づくりの具体的方策を調査・研究していく。
- ・ どの子も友と関わり合いながら学びを深めることができる、教師の支援及び授業の内容・展開・形態のあり方。
- ・ 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援について、全体での授業を通したどの生徒にも有効な授業を展開しながら、少人数や個別に対応が必要な児童生徒への支援をどう行うことが有効かという内容について研究する。
- ・ 中学校及び高等学校におけるユニバーサルデザインの授業
- ・ 中学校・高等学校での通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくりでは、教科の専門性が必要となるため、各教科担当の指導主事との連携が必要になる。
- ・ ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりの実践
- ・ 主体的・対話的な深い学びにつなげるユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり
- ・ 基本的な授業力を高めること
- ・ 授業のユニバーサルデザイン化についてなど、具体的な指導方法や学校体制についての調査、研究を行う。また、授業のユニバーサルデザイン化だけでなく、教育全体を見ていく教育のユニバーサルデザイン化を進める。
- ・ 研究校を指定し、実践を蓄積し、周知すること。
- ・ すべての児童生徒が「わかる」「できる」ことを目指した授業実践のモデル発表
- ・ 一人一人の学び方の違いに応じて、様々な学び方が選択できる学習方法
- ・ 学校風土、学級風土を向上するための教員の意識や技能の向上について
- ・ 基礎的環境整備の視点を踏まえた通常学級での授業づくり研修の内容・方法

【発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制にかかわること】(25)

- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりも含めた、高等学校に対する支援
- ・障害のある子どもたちとのかかわり合いと実態把握
- ・学習指導要領に準拠した発達障害のある児童生徒の指導内容
- ・校内における発達障害のある子どもたちの支援体制の充実
- ・実態把握から具体的な内容を設定するまでの流れ、具体的な指導方法など
- ・現在、年長児、小学生、中・高校生用の各種チェックリストを作成している。幼児児童生徒の早期支援につながるよう、学校現場で有効に活用できるように広めていくことが課題である。
- ・本人の「困っている状態」に寄り添い、支援するための方策について、理解啓発を進めるための工夫の在り方
- ・実態把握のための担任用チェックリストの作成と活用
- ・発達障がいの可能性のある児童生徒への合理的配慮の提供及びICTの活用の在り方
- ・これまでの研究で①と④は行った。特別支援学級・通級指導教室担当者のスタートブックの作成にも取り組んだ。また小・中・高を対象とした経年研修や全校種を対象とした希望研修で①③④⑤をおさえて指導している。「どう子どもを捉え、指導していくか」の実践研究とその成果の還元が必要である。
- ・中学校の通級指導教室における指導の充実に関する研究
- ・支援教育は、支援学級の担任や通級による指導担当だけが理解・推進するものではなく、全教職員による理解と推進が必要な教育であり、その専門性を向上させていくことが大切である。そのため、通常の学級における発達障がいのある児童生徒への指導・支援の現状と課題を捉え、先進的な実践や体制について調査・研究し、府内の小・中学校において共有し、深い理解へつながる研修実施、資料作成等に取り組む。
- ・管理職の意識向上
- ・学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫について考えるためのチェックシート作成
- ・個に応じたきめ細かな指導・支援を行う授業づくり・個別の指導計画の効果的な活用
- ・特別な支援が必要な子どもの理解と対応について学ぶ(見方・とらえ方)
- ・高等学校における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり
- ・児童生徒の実態に対して、必要な支援や適切な指導に関する研究
- ・集団の中で安心できる学級経営の工夫
- ・発達障害のある子供の状況を「どこまで、どのように」周りの子供に理解させるか。
- ・発達障害のある児童生徒に対する、個々の教育的ニーズに応じた支援を提供するために、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用した指導の在り方
- ・上記1(3)の調査・研究「見守りシートながさき」活用ハンドブック～発達障害等への気付きを促し支援をつなぐ～の作成の充実
- ・学習上、生活上の表出する困難の要因分析と適切な指導方法の設定
- ・実態把握の方法に関する研究および把握した内容と指導内容、指導方法とのつながりに関する研究口
- ・通常の学級における発達障害等のある児童生徒を対象とした研究については、特に、幼稚園・保育所及び高等学校を視野に入れていきたいと考えている。
- ・自閉スペクトラム症(傾向)の児童生徒への適切な指導(SST及び学力補完)
- ・学習における困難さに対する個に応じた手立てについて、各教科等の専門分野での研究の推進
- ・子どもの発達の状態と特性について学級担任が行えるアセスメントについて
- ・授業主担者と、特別支援教育支援員やチームティーチャーとの授業におけるより効果的な連携方法
- ・発達障がいの子どものつまづきやすさに応じたソーシャルスキル・ライフスキルに関する指導
- ・支援を学校生活や授業の中にどのように保証していくか
- ・通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の自立活動の指導について
- ・LD傾向の児童(読み書きに困難がある子ども)の早期発見及び具体的な支援方法

【合理的配慮にかかわること】(9)

- ・ 合理的配慮提供状況と、提供に際した保護者の合意形成のプロセス
- ・ 個別の教育支援計画等を活用した指導・支援及び引継ぎに関する事など
- ・ 合理的配慮の提供に関わる基礎的環境整備状況
- ・ 知的な能力がグレーゾーンでLDのある児童生徒の学習のあり方、合理的配慮の進め方について
- ・ ICT機器を活用した代替的なアプローチによる指導法の普及・啓発
- ・ 合理的配慮の具体的事例(合意形成に至るプロセスを含む)を把握し、必要に応じて情報を提供を行う。
- ・ 事例収集と周知
- ・ 指導事例の収集
- ・ 個別の教育支援計画や個別の指導計画等による引継ぎをもとに合理的配慮の提供を行うことや、その実践例について

【校内体制の整備や協力体制の充実に関わること】(7)

- ・ 「チーム学校」の組織力を生かした特別支援教育に関する校内支援体制の整備と連携強化について
- ・ 支援を必要とする児童生徒の情報共有のための学校間の引き継ぎ連携と、個別の指導計画の作成・活用
- ・ 児童生徒に適切な支援が届くための校内体制の充実 \* 教育支援体制整備ガイドラインに基づいた役割の遂行についての調査・研究
- ・ 児童生徒の的確な理解を踏まえた校内支援体制の確立、組織的な対応
- ・ 実践を進めていく上での、保護者の同意
- ・ 通級指導教室担当者と在籍学級担任等との連携
- ・ 授業づくりや支援体制を継続的につなげていくための体制づくり
- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の構築について

【その他】(1)

- ・ 高等学校における発達障がいのある生徒の集団と個別の指導について

4 3以外に今後必要と考える調査・研究

【特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること】(11)

- ・ 通級指導教室における指導の有効性と小・中・高における連続した支援の検討
- ・ 高等学校通級指導教室における支援の実際と取組事例
- ・ 平成30年度より高等学校において「通級による指導」の教育課程に位置付けられている自立活動の指導について、実践発表や事例を使った演習を通して具体的な目標や内容を考える。
- ・ 特別支援教育におけるカリキュラム・マネジメント
- ・ 経験年数の少ない職員の資質の向上と学校支援体制の構築
- ・ ニーズに応じた専門性の向上
- ・ 合理的配慮の観点を踏まえた個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成及び活用状況に関する調査
- ・ 各校園における効果的な支援方法及び実践事例の蓄積と活用に関する研究
- ・ 通級指導教室における事例・実践発表
- ・ 特別支援学級、通級指導教室担当教員の専門向上
- ・ 専門性を向上させるための研修内容・方法
- ・ 通級指導教室での指導・支援の充実

#### 【高等学校に関わること】(19)

- ・ 校内支援体制の整備調査
- ・ 高等学校における特別支援教育に関する調査・研究
- ・ 通級指導教室の設置状況と実践内容等道路指導の取組と卒業後の追跡調査
- ・ 発達障害のある生徒の実態把握・指導方法
- ・ 高等学校における通級指導の現状と課題
- ・ 高等学校における通級指導教室の実情と今後の在り方
- ・ 高等学校における「通級による指導」に関する研究
- ・ 高等学校における通級指導教室の現状と課題の整理及び、教職員の研修体系の構築。
- ・ 高等学校における通級による指導の有効な方法等について
- ・ 高等学校における特別支援教育の現状と課題
- ・ 高等学校の教員、管理職の意識向上
- ・ 高等学校における特別支援教育のあり方に関する調査・研究
- ・ 特別支援教育コーディネーターの役割を理解し、校内の特別支援教育推進のための力を身につける。
- ・ 高等学校における通級指導教室と通常学級との連携、連続性のある指導の在り方
- ・ 高等学校における通級による指導の在り方
- ・ 高等学校における通級指導教室の在り方について(校内体制の整備や個別的教育支援計画・個別の指導計画の活用等)
- ・ 高等学校における特別な教育的ニーズの必要な生徒への支援及び授業づくりに関する研究
- ・ 高等学校における通級による指導の在り方
- ・ 高等学校における特別支援教育にかかわる取組の具体例

#### 【家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること】(6)

- ・ 通級指導の対象者が増加している状況において、指導者の人材確保やスキルアップのための研修のあり方について
- ・ 通常の学級における合理的配慮の在り方について
- ・ 個別的教育支援計画を活用した、地域における相談や連携の仕組みづくりについて
- ・ 関係機関との連携について
- ・ インクルーシブ教育システム構築に向けての組織的な取り組みについて
- ・ 個別的教育支援計画の効率的な策定、運用の在り方の研究

#### 【新学習指導要領に関わること】(13)

- ・ 知的障がい特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方
- ・ 知的障がい教育の教育課程について。特に、教科等合わせた指導の教育課程上の位置づけと実際の指導について
- ・ 新学習指導要領の内容を踏まえた特別支援学校の教育活動の充実
- ・ 知的障害特別支援学校における新学習指導要領に準拠した「各教科等を合わせた指導」の充実
- ・ 新学習指導要領の内容を踏まえた特別支援学校における教科指導の充実に関する調査研究
- ・ 学びの連続性を意識した特別支援学校における指導の実践例の蓄積と成果の検証
- ・ 主体的・対話的で深い学びについての実践研究
- ・ 知的障害教育における育成をめざす資質・能力に基づいた授業づくりについて
- ・ 知的障害特別支援学校における教科等の考え方(あわせた指導の在り方を含めて)
- ・ 特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・ 自立活動の指導の充実
- ・ 特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの実現
- ・ 特別支援学校や特別支援学級における主体的・対話的で深い学びの実践に関する研究
- ・ 障害の状態等に応じた手立てについて、教科等の専門分野との共同研究の推進に関わる研究・調査

#### 【その他】(2)

- ・ 通常の学級における発達障害またはその疑いのある児童生徒への合理的配慮の具体例に関する調査について

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |           |                       |
|--|-----------|-----------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>2 | 機関名<br>北海道立特別支援教育センター |
|--|-----------|-----------------------|

※ 3.1については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容   |
| ①     | 学習障がいのある児童生徒への適切な支援の在り方について<br>～通常の学級及びゆめ館指導教室における合理的配慮～ |
|       |  |
|       |  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1位 | ⑥                               |
| 2位 | ①                               |
| 3位 | ②                               |
| ①  | 研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断     |
| ②  | 子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法       |
| ③  | 教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾 |
| ④  | 医療機関、相談機関との連携                   |
| ⑤  | その他（ ）                          |

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

（最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
| ④                | 「チーム学校」の組織力を生かした特別支援教育に関する校内<br>支援体制の整備と連携強化について |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

|               |   |
|---------------|---|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ④             | 知的障がい、特別支援学校における「主体的・対話的で深い学<br>習」の実現に向けた授業改善の在り方 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |           |                      |
|--|-----------|----------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>3 | 機関名<br>青森県総合学校教育センター |
|--|-----------|----------------------|

※ 3.1については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |                                |
|-------|--------------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                         |
| ①     | 通常学級におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する調査 |
|       |                                |
|       |                                |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1位 | ②                               |
| 2位 | ⑦                               |
| 3位 | ⑥                               |
| ①  | 研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断     |
| ②  | 子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法       |
| ③  | 教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾 |
| ④  | 医療機関、相談機関との連携                   |
| ⑤  | その他（ ）                          |

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

（最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

|                  |   |
|------------------|---|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                  |
| ①                | 小・中・高等学校における実施状況<br>・実施後の学習上の効果について調査分析 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

|               |             |
|---------------|-------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容      |
| ②             | 校内支援体制の整備調査 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|   |           |                     |
|---|-----------|---------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>（個人・研究事業の利無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答<br>（①、②の回答の場合は②以降へ） | 機関番号<br>4 | 機関名<br>岩手県立総合教育センター |
|---|-----------|---------------------|

※ 3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

- 1 特別支援教育に関する調査・研究事業
- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

① 年数

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容   |
| ①     | 高等学校における特別支援教育推進に関する研究<br>二校内研修プログラムの作成および各校のニーズに応じた活用を通して |
|       |  |
|       |  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

|        |           |           |
|--------|-----------|-----------|
| ①      | ②         | ③         |
| 発表会の実施 | 冊子・CD等で配付 | ホームページで公開 |
| ④      | ⑤         | ⑥         |
| 研修に生かす |           |           |

- 2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題  
（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入）

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ① |
| 2位 | ② |
| 3位 | ③ |
| ④  | ⑤ |
| ⑥  | ⑦ |

①研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（ ）

- 3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |   |
|------------------|---|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ④                | 支援を必要とする児童生徒の情報共有のための学校の引き継ぎ連携と、個別の指導計画の作成・活用 |

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること  
⑥その他（ ）

- 4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |   |
|---------------|---|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
|               | 特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること<br>②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること<br>④新学習指導要領に関すること<br>⑤その他（ ） |

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|   |           |                    |
|---|-----------|--------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>（個人・研究事業の利無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答<br>（①、②の回答の場合は②以降へ） | 機関番号<br>5 | 機関名<br>宮城県総合教育センター |
|---|-----------|--------------------|

※ 3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

- 1 特別支援教育に関する調査・研究事業
- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

① 年数

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容               |
| ②     | 自立活動の内容を参考にした通級による指導 |
|       |                      |
|       |                      |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

|        |           |           |        |
|--------|-----------|-----------|--------|
| ①      | ②         | ③         | ④      |
| 発表会の実施 | 冊子・CD等で配付 | ホームページで公開 | 研修に生かす |
| ⑤      | ⑥         | ⑦         | ⑧      |
| その他    |           |           |        |

- 2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題  
（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入）

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ① |
| 2位 | ② |
| 3位 | ③ |
| ④  | ⑤ |
| ⑥  | ⑦ |

①研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（ ）

- 3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
| ④                | 児童生徒に適切な支援が得るための校内体制の改善<br>＊教育支援体制整備ガイドラインに基づいた夜間の運行についての調査・研究 |

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること  
⑥その他（ ）

- 4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                         |
|---------------|-------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                  |
| ②             | 高等学校における特別支援教育に関する調査・研究 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること  
②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること  
④新学習指導要領に関すること  
⑤その他（ ）



第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |           |  |
|--|-----------|--|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>8 | 機関名<br>福島県特別支援教育センター<br><small>※調査票が、機関には、電子形式での記入が求められます。</small> |
|--|-----------|--|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  調査・研究していない(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法(期間)をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

| 研究の内容 | 具体的な内容   |
|-------|--|
| ①     | 発達障がいや困難性のある児童生徒を言わずに特別支援を必要とする児童生徒に関する調査・合理的配慮に関する調査  |
| ③     | 特別支援教育の推進に資する調査・発達障がいや困難性のある児童生徒の指導の充実・特別支援教育の推進に資する調査・発達障がいや困難性のある児童生徒の指導の充実・特別支援教育の推進に資する調査・発達障がいや困難性のある児童生徒の指導の充実 |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に關わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に關わる研究  
③特別支援学校に關わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に關する研究  
⑤その他 (  )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

①  ②  ③

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 (  )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入)

1位  ⑥

2位  ②

3位  ①

- ①研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他 (  )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
|------------------|---|
| ②                | 障害のある子どもとふたりのかわり合いや多動性・学習指導要領に抵触した発達障害のある児童生徒の指導内容・校内における発達障害のある子どもたちの支援体制の充実 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

- ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

- ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に關わること

- ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に關わること

- ⑥その他 (  )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
|---------------|--|
| ④             | 通級指導教室の設置状況と卒業後の通級調査<br>・特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること<br>・通級指導の取組と卒業後の通級調査<br>・特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること<br>・通級指導の取組と卒業後の通級調査 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること

- ②高等学校に關わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に關わること

- ④新学習指導要領に關わること

- ⑤その他 (  )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |           |  |
|--|-----------|--|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>9 | 機関名<br>茨城県教育研修センター<br><small>※調査票が、機関には、電子形式での記入が求められます。</small> |
|--|-----------|--|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  調査・研究していない(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法(期間)をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

| 研究の内容 | 具体的な内容                     |
|-------|----------------------------|
| ③     | 児童生徒の障害の状態等に応じた自立活動の指導の在り方 |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に關わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に關わる研究  
③特別支援学校に關わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に關する研究  
⑤その他 (  )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

①  ②  ③

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 (  )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入)

1位  ①

2位  ⑥

3位  ②

- ①研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他 (  )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                         |
|------------------|--------------------------------|
| ④                | 合理的配慮確保状況と、提供に際した保護者の合意形成のプロセス |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

- ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

- ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に關わること

- ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に關わること

- ⑥その他 (  )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
|---------------|--|
| ④             | 通級指導教室の設置状況と卒業後の通級調査<br>・特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること<br>・通級指導の取組と卒業後の通級調査<br>・特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること<br>・通級指導の取組と卒業後の通級調査 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること

- ②高等学校に關わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に關わること

- ④新学習指導要領に關わること

- ⑤その他 (  )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>10 | 機関名<br>栃木県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3.については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ⑤     | 多様な学びの場における充実した指導及び支援の実現に向けて、全ての子どもが共に活躍できる授業づくり（通常学級の担任と通級による指導担当教員との連携） |
|       |   |
|       |   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  
特別支援教育コーディネーターの役割に関する研究）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

② ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  
）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入）

1位 ①  
2位 ⑥  
3位 ⑥

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（  
）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |   |
|---|---|
| ③ | 課題、今後必要と考える調査・研究<br>具体的な内容<br>個別の教育支援計画等を活用した指導・支援及び引継ぎに関することなど |
|---|---|

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  
）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |   |
|---|---|
| ④ | 今後必要と考える調査・研究<br>具体的な内容<br>新学習指導要領の内容を踏まえた特別支援学校における教科指導の充実に関する調査研究 |
|---|---|

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  
）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>11 | 機関名<br>群馬県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3.については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ②     | 多様な学びの場における充実した指導及び支援の実現に向けて、全ての子どもが共に活躍できる授業づくり（通常学級の担任と通級による指導担当教員との連携） |
|       |   |
|       |   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  
）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  
）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入）

1位 ①  
2位 ④  
3位 ④

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（  
）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |   |
|---|---|
| ③ | 課題、今後必要と考える調査・研究<br>具体的な内容<br>合理的配慮の提供に関わる基礎的環境整備状況 |
|---|---|

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  
）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |   |
|---|---|
| ④ | 今後必要と考える調査・研究<br>具体的な内容<br>学びの連続性を意識した特別支援学校における指導の実践例の蓄積と成果の検証 |
|---|---|

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  
）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                     |
|--|------------|---------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>12 | 機関名<br>埼玉県立総合教育センター |
|--|------------|---------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

② 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入(最大3つ)

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容                                     |
| ⑤     | 特別支援教育における主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導実践に関する調査研究 |
| ②     | 特別支援学校の教育課程編成の在り方に関する調査研究                  |
| ④     | 自閉症の児童生徒への指導の在り方に関する調査研究                   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

② ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位 ⑥  
2位 ①  
3位 ⑦  
④  
①研究協力校 研究協力校の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                                 |
|------------------|---------------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                          |
| ④                | 児童生徒の的確な理解を踏まえた校内支援体制の確立、組織的な対応 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                       |
|---------------|-----------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                |
| ④             | 主体的・対話的で深い学びについての実践研究 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>13 | 機関名<br>千葉県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

② 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入(最大3つ)

|       |        |
|-------|--------|
| 研究の内容 | 具体的な内容 |
| ③     | 教育課程   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位 ④  
2位 ⑥  
3位 ⑤  
①  
①研究協力校 研究協力校の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                                   |
|------------------|-----------------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                            |
| ②                | 実態把握から具体的な内容を設定するまでの流れ、具体的な指導方法など |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                     |
|---------------|---------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容              |
| ②             | 発達障害のある生徒の実態把握・指導方法 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                     |
|--|------------|---------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>14 | 機関名<br>東京都教職員研修センター |
|--|------------|---------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッツダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロッツダウンリストから該当する年数を選択し  
年間

教育庁指導部や都立学校教育部、  
当センターであれば教育開発課  
が担当であるため、専門教育向

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |        |
|-------|--------|
| 研究の内容 | 具体的な内容 |
|       |        |
|       |        |
|       |        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | ③ | ④ |
|---|---|---|

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ⑦ |
| 2位 | ⑥ |
| 3位 | ④ |

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

|                  |        |
|------------------|--------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容 |
|                  |        |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

|               |        |
|---------------|--------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容 |
|               |        |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること  
②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること  
④学習指導要領に関すること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                      |
|--|------------|----------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>15 | 機関名<br>神奈川県立総合教育センター |
|--|------------|----------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッツダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロッツダウンリストから該当する年数を選択し  
年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ③     | 特別支援学校における主体的・創造的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する研究 (H30～31)                    |
| ③     | 知的な実態把握に基づく指導・支援の在り方に関する調査・研究・一学校でのアセスメントの効率的な活用方法の検討を補してー (H28～29) |
| ④     | インクルーシブな学校づくりの推進に関する研究  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | ③ | ④ |
|---|---|---|

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ⑦ |
| 2位 | ⑥ |
| 3位 | ④ |

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

|                  |        |
|------------------|--------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容 |
|                  |        |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

|               |        |
|---------------|--------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容 |
|               |        |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること  
②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること  
④学習指導要領に関すること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                   |
|--|------------|-------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>16 | 機関名<br>新潟県立教育センター |
|--|------------|-------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
 年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

| 研究の内容 | 具体的な内容                             |
|-------|------------------------------------|
| ①     | 通常の学級における特別支援教員の在り方と校内支援体制の在り方・作り方 |
|       |                                    |
|       |                                    |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入）

1位  ⑥  
2位  ⑦  
3位  ⑧

① 研究協力校・研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

①  調査・今後必要と考える調査・研究

| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
|------------------|--|
| ①                | 合理的配慮として始めた発達障害のある児童生徒に対する支援をいかにもう一度、基礎的準備としてユニバーサルデザインに変換していくか。 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究

| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                   |
|---------------|--------------------------|
| ②             | 高等学校における通級指導教室の実情と今後の在り方 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>17 | 機関名<br>富山県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
 年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

| 研究の内容 | 具体的な内容 |
|-------|--------|
|       |        |
|       |        |
|       |        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入）

1位  ⑥  
2位  ⑦  
3位  ⑧

① 研究協力校・研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

②  調査・今後必要と考える調査・研究

| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
|------------------|--|
| ②                | 現在、年長児、小学生、中・高校生用の各種チェックリストを作成している。幼児児童生徒の早期支援につながるよう、学校現場で有効に活用できるように広めていくことが課題である。 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究

| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
|---------------|---|
| ⑤             | 通常の学級における発達障害またはその疑いのある児童生徒への合理的配慮の具体的な事例に関する調査について |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                      |
|--|------------|----------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>18 | 機関名<br>石川県教育総合研修センター |
|--|------------|----------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |        |
|-------|--------|
| 研究の内容 | 具体的な内容 |
|       |        |
|       |        |
|       |        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入)

1位 ⑥  
2位 ④  
3位 ⑦

①研究協力校 研究協力校の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |   |
|------------------|---|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ②                | 本人の「困っている状態」に寄り添い、支援するための方策について、理解啓発を進めるための工夫の在り方 |

- ①ユニバーサルデザイン視点の観点踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                          |
|---------------|--------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                   |
| ①             | 高等学校通級指導教室における支援の実践と取組事例 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                      |
|--|------------|----------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>19 | 機関名<br>福井県特別支援教育センター |
|--|------------|----------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                           |
| ①     | 読み書きのつまずきに対する早期発見・支援に関する学校支援について |
| ⑤     | 校内支援体制や個別の教育支援・指導計画作成、活用に関する調査   |
|       |                                  |
|       |                                  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入)

1位 ⑥  
2位 ④  
3位 ⑦

①研究協力校 研究協力校の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                   |
| ④                | 知的な能力がゾーンでLDのある児童生徒の学習のあり方、合理的配慮の進め方について |

- ①ユニバーサルデザイン視点の観点踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |   |
|---------------|---|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ④             | 通級指導の劣条件が増加している状況において、指導者の人材確保やスキルアップのための研修のあり方について |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>20 | 機関名<br>山梨県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3.については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法 (期間) をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容   |
| ①     | 研究主題：学校における「合理的配慮の提供」の充実に関する研究<br>副主題：関係機関との連携と発達特性を踏まえた学習支援（学習障害） |
|       |  |
|       |  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入)

1位 ⑩  
2位 ⑥  
3位 ⑤  
④ 研究協力校 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
② 子どもの実態把握 ① 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法 (期間) をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ①     | 本県で規定されている「やまなしスタンダード（授業づくりの7つの視点）」ともリンクさせながら、児童生徒の「困り感」に寄り添いながら、通常の学級でできる授業づくり、学級づくりの具体的な方策を調査・研究していく。 |
|       |   |
|       |   |

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究

② 高等学校における「通級による指導」に関する研究

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④学習指導要領に関わること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>21 | 機関名<br>長野県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3.については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法 (期間) をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ①     | 通常学級における発達障害の特性を得つ児童生徒への支援・指導のあり方<br>(授業のユニバーサルデザイン化) |
|       |   |
|       |   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入)

1位 ⑦  
2位 ①  
3位 ⑥  
④ 研究協力校 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
② 子どもの実態把握 ① 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法 (期間) をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ①     | どの子どもと関わり合いながら学びを深めることができるか、教師の支援及び授業の内容・展開・形態のあり方。 |
|       |   |
|       |   |

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究

② 高等学校における通級指導教室の現状と課題の整理及び、教員  
員の研修体系の構築。

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④学習指導要領に関わること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>22 | 機関名<br>岐阜県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3.については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  調査・研究していない(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
② 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容   |
| ①     | ・平成25～30年にかけて、県内6圏域の小中学校各1校を2年間ずつ研究指定校として指定して実施。 |
|       |  |
|       |  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（                      ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①                       ②                       ③

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（                      ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ④

2位 ⑧

3位 ⑦

⑥

⑨

⑩

⑤

③

②

①

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

④

⑩

③

⑤

②

⑧

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>24 | 機関名<br>愛知県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答  
 年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ②     | 社会生活を送る上で必要な方（ライフスキズ）の視点を取り入れた自立活動の実践を、小・中学校と特別支援学校とが協力して研究を行う。 |
|       |   |
|       |   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位  ⑥

2位  ④

3位  ⑦

① 研究協力校・研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |   |
|---|---|
| ① | 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援について、全体での授業を通しての生徒にも有効な授業を抽出しながら、少人数や個別に対応が必要な児童生徒への支援をどう行うことが有効かという内容について研究する。 |
|---|---|

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                            |
|---------------|----------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                     |
| ②             | 高等学校における通級による指導の有効な方法等について |

①特別支援学級、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>25 | 機関名<br>三重県教育委員会事務局 |
|--|------------|--------------------|

※3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答  
 年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |        |
|-------|--------|
| 研究の内容 | 具体的な内容 |
|       |        |
|       |        |
|       |        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位  ②

2位  ④

3位  ⑤

① 研究協力校・研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| ⑥ | 高等学校における発達障害のある生徒の集団と個別の指導について |
|---|--------------------------------|

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                            |
|---------------|----------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                     |
| ⑤             | 特別支援学級、特別支援学級、通級指導教室に関わること |

①特別支援学級、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>26 | 機関名<br>滋賀県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3.については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究していない(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
3 年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容                                     |
| ①     | 小学校の通常の学級におけるそれぞれの子どもが参加している実感・達成感を得る授業づくり |
| ③     | 特別支援学校における自立活動の指導のあり方                      |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ④

2位 ⑥

3位 ⑤

① 研究協力校、研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断

④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法

⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾

⑨ 医療機関、相談機関との連携

⑩ その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                    |
| ②                | 中学校の通級指導教室における指導の充実に関する研究 |

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                      |
|---------------|----------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容               |
| ②             | 高等学校における特別支援教育の現状と課題 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>27 | 機関名<br>京都府総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3.については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究していない(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
3 年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容              |
| ②     | ICTを活用した関に応じた指導法の研究 |

- ①小学校、中学校、高等学校の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ①

2位 ⑦

3位 ②

① 研究協力校、研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断

④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法

⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾

⑨ 医療機関、相談機関との連携

⑩ その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                                 |
|------------------|---------------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                          |
| ③                | ICT機器を活用した代替的なアプローチによる指導法の普及・啓発 |

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                        |
|---------------|------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                 |
| ③             | 通常の学級における合理的配慮の在り方について |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                  |
|--|------------|------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>28 | 機関名<br>大阪府教育センター |
|--|------------|------------------|

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究していない(した) ② 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

① 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ④     | 「主体的、着眼的で深い学び」の視点で、学習困難者の協力を得ながら、研究協力校における授業づくり支援を行い、授業改善の取組みを「授業づくりガイドブック」としてまとめる。 |
|       |   |
|       |   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入）

1位 ①

2位 ⑥

3位 ⑦

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |   |
|------------------|---|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ②                | 発達障害のある児童生徒の発達障害による学習困難や理解・進捗するものに比べて、全職員による理解と推進が必要な教育であり、その専門性向上を止めていくことが大切である。そのため、通常の学級における発達障害のある児童生徒への理解、支援の現状と課題を捉え、先進的な実践や体制について調査・研究を行い、中学校において共有し、深い理解つながらる研修実施、資料作成等に展開した。 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

- ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

- ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

- ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

- ⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |  |
|---------------|--|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
| ①             | 子どものより高等学校において「通級による指導」の教育課程に反映付けられている自立活動の活用について、実施状況や事例を伺った内容を基として最初の自立活動内容を考える。 |
|               | ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること  |
|               | ②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること   |
|               | ④新学習指導要領に関すること   |
|               | ⑤その他（ ）  |

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                       |
|--|------------|-----------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>29 | 機関名<br>兵庫県立特別支援教育センター |
|--|------------|-----------------------|

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究していない(した) ② 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

① 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容   |
| ①     | 「インクルーシブ教育システム」の理解啓蒙に関する研究「～通常学級教員への啓蒙のある子どもの教育的支援について」の理解啓蒙（特設研修） |
| ③     | 次世代を担う特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの育成                                     |
|       |  |
|       |  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入）

1位 ⑥

2位 ②

3位 ⑧

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |          |
|------------------|----------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
| ②                | 管理職の意識向上 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

- ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

- ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

- ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

- ⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                                      |
|---------------|--------------------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                               |
| ②             | 高等学校の教員、管理職の意識向上                     |
|               | ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること          |
|               | ②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること |
|               | ④新学習指導要領に関すること                       |
|               | ⑤その他（ ）                              |

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                  |
|--|------------|------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>30 | 機関名<br>奈良県立教育研究所 |
|--|------------|------------------|

※ 3.については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  ②  ③  ④  ⑤

①調査・研究していない(した) ②予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入(最大3つ)

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                  |
| ②     | 高等学校における通級による指導実施に向けた研究 |
|       |                         |
|       |                         |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他(  )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

①  ②  ③  ④  ⑤

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他(  )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入)

1位  2位  3位  4位  5位

① 研究協力校・研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他(  )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |   |
|------------------|---|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ②                | 学習活動を行う機会に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫について考えるためのチェックシート作成 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他(  )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                                       |
|---------------|---------------------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                |
| ③             | 個別の教育支援計画を活用した、地域における相談や連携の仕組みづくりについて |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他(  )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                       |
|--|------------|-----------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>31 | 機関名<br>和歌山県教育センター学びの丘 |
|--|------------|-----------------------|

※ 3.については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  ②  ③  ④  ⑤

①調査・研究していない(した) ②予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入(最大3つ)

|       |        |
|-------|--------|
| 研究の内容 | 具体的な内容 |
|       |        |
|       |        |
|       |        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他(  )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

①  ②  ③  ④  ⑤

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他(  )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入)

1位  2位  3位  4位  5位

① 研究協力校・研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他(  )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
| ③                | 合理的配慮の具体的な事例(含形態)に基くプロセスを含む)を把握し、必要に応じて情報を提供を行う。 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他(  )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                                      |
|---------------|--------------------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                               |
| ④             | 知的障害者教育における育成をめざす資質・能力に基づいた授業づくりについて |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他(  )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                  |
|--|------------|------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>32 | 機関名<br>島根県教育センター |
|--|------------|------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の利便をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法(期間)をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

| 研究の内容 | 具体的な内容   |
|-------|--|
| ①     | 発達障がいのある児童生徒に対する早期支援事業(Ｈ27～28)<br>小学校低学年における読み書きの困難さを早期発見し、通常の学級への対応における指導方法 |
| ②     | 通級による指導担当教員等専門性向上事業(Ｈ28～29)<br>発達障がいに関する通級による指導の担当教員に対する研修(研修時間確保)とともに、      |
| ④     | 発達障がいのある児童生徒に対する教科指導法の研究実践を行う<br>小学校の低学年を中心に「国語科」(体育科)における教科指導法の研究実践を行う      |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入)

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ⑩ |
| 2位 | ⑨ |
| 3位 | ⑧ |

- ①研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                 |
| ②                | 個に応じたきめ細かな指導・支援を行う授業づくり・個別の指導計画の効率的な活用 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること  
⑥その他( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                      |
| ④             | 高等学校における特別支援教育のあり方に関する調査・研究 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること  
②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること  
④新学習指導要領に関すること  
⑤その他( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                  |
|--|------------|------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>33 | 機関名<br>島根県教育センター |
|--|------------|------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の利便をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法(期間)をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

| 研究の内容 | 具体的な内容                                  |
|-------|---|
| ②     | 特別支援学級担任を対象とする教育センター研修の在り方と課題への対応に向けた取組 |
| ⑤     | 出前講座を通じたインクルーシブ教育システムの理解啓発に関する取組        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

① ② ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入)

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ⑥ |
| 2位 | ④ |
| 3位 | ② |

- ①研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                                     |
|------------------|-------------------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                              |
| ②                | 特別な支援が必要ない子どもの理解と対応について学ぶ(見方・とらえ方)。 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること  
⑥その他( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |   |
|---------------|---|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ②             | 特別支援教育コーディネーターの役割を理解し、校内の特別支援教育推進のための力を身につける。 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること  
②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること  
④新学習指導要領に関すること

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>34 | 機関名<br>岡山県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3.1については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                       |
| ④     | 知的障害教育における主体的・対話的で深い学びに関する研究 |
|       |                              |
|       |                              |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | ① | ③ |
|   |   |   |

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入）

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ⑤ |
| 2位 | ② |
| 3位 | ① |
| ④  |   |

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                              |
|------------------|------------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                       |
| ②                | 高等学校における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                                       |
|---------------|---------------------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                |
| ②             | 高等学校における通級指導教室と通常の学級の連携、通級教室のある指導の在り方 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                   |
|--|------------|-------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>35 | 機関名<br>広島県立教育センター |
|--|------------|-------------------|

※ 3.1については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ③     | 平成20年度 知的障害のある児童の選抜しいる人間関係を育む授業の在り方<br>— 其他の個人間関係を形成する。取りまわりの発表を通して —                       |
| ③     | 平成29年度 特別支援教育の推進を主眼とした主体的・対話的で深い学びの在り方<br>— 協働学習を軸とした主体的・対話的で深い学びの在り方 —                     |
| ①     | 平成28年度 通常の学級に在りて特別支援学級の導入方法としてのユニバーサルデザインの活用を通して、<br>— 主体的な学び、を促すユニバーサルデザインの授業モデルの活用を通して、 — |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | ③ | ④ |
|   |   |   |

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入）

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ① |
| 2位 | ⑦ |
| 3位 | ⑥ |
| ④  |   |

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                            |
|------------------|----------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                     |
| ①                | 中学校及び高等学校におけるユニバーサルデザインの授業 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                     |
|---------------|---------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容              |
| ②             | 高等学校における通級による指導の在り方 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                                      |
|--|------------|--------------------------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>調査・研究に教育関係者に応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>36 | 機関名<br>やまぐち総合教育支援センター内<br>ふれあい教育センター |
|--|------------|--------------------------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①  ②  ③

①調査・研究している(した) ②予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

①  ②

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                                |
| ④     | 通常の学級における子どもの特性に配慮した学級づくり、授業づくりに関する研究 |
|       |                                       |
|       |                                       |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入）

1位 ①   
2位 ②   
3位 ③   
4位 ④

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入）

|                  |                              |
|------------------|------------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                       |
| ②                | 児童生徒の実態に対して、必要な支援や適切な指導に関する研 |

- ①ユニバーサルデザインの視点をもった授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                         |
|---------------|-------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                  |
| ①             | 特別支援教育におけるカリキュラム・マネジメント |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                     |
|--|------------|---------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>調査・研究に教育関係者に応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>37 | 機関名<br>徳島県立総合教育センター |
|--|------------|---------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①  ②  ③

①調査・研究している(した) ②予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

①  ②

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ①     | 通常の学級における特別支援教育の充実として、学校全体で取り組むボジティブな行動支援の研究（スクワアードPDS）を実践している。 |
|       |   |
|       |   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入）

1位 ①   
2位 ②   
3位 ③   
4位 ④

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入）

|                  |   |
|------------------|---|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ④                | ・ 課題を進めていく上での、保護者の同意。<br>・ 通級指導教室担当者や在籍学校級担任等との連携 |

- ①ユニバーサルデザインの視点をもった授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |        |
|---------------|--------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容 |
|               |        |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                  |
|--|------------|------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>（調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答する<br>指掌・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方） | 機関番号<br>38 | 機関名<br>香川県教育センター |
|--|------------|------------------|

※.3については、調査・研究事業の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
 (①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|                 |
|-----------------|
| 研究の内容<br>具体的な内容 |
|                 |
|                 |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
 ③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
 ⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
 ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

- （最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入）

1位 ⑥  
 2位 ⑦  
 3位 ⑧

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
 ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
 ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力的体制 ⑧保護者の理解と承諾  
 ⑨医療機関、相談機関との連携  
 ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |
|---|
| ②<br>課題、今後必要と考える調査・研究<br>具体的な内容<br>「集団の中で安心できる登校経路の工夫・発達障害のある子供の状況を「どこまで、どのように」周りの子供に理解させるか。」 |
|---|

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
 ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
 ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力的体制の充実に関わること  
 ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
 ⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |
|---|
| 今後必要と考える調査・研究<br>具体的な内容<br>③ 関係機関との連携について |
|---|

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
 ②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
 ④学習指導要領に関わること  
 ⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>（調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答する<br>指掌・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方） | 機関番号<br>39 | 機関名<br>愛媛県総合教育センター |
|--|------------|--------------------|

※.3については、調査・研究事業の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
 (①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|                 |
|-----------------|
| 研究の内容<br>具体的な内容 |
|                 |
|                 |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
 ③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
 ⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
 ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

- （最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入）

1位 ⑥  
 2位 ②  
 3位 ⑦

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
 ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
 ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力的体制 ⑧保護者の理解と承諾  
 ⑨医療機関、相談機関との連携  
 ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |
|---|
| ①<br>課題、今後必要と考える調査・研究<br>具体的な内容<br>「中学校・高等学校での通常の学級におけるユニバーサルデザインの実態把握・発達障害のある児童生徒の状況を「どこまで、どのように」把握するため、各教科担当の指導主事との連携が必要になる。」 |
|---|

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
 ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
 ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力的体制の充実に関わること  
 ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
 ⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |
|---|
| 今後必要と考える調査・研究<br>具体的な内容<br>② 特別支援学級、通級指導教室に関する調査・研究<br>（校内体制の整備や協力的体制の充実や個別の指導計画・個別の指導計画の活用等） |
|---|

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関する調査・研究  
 ②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
 ④学習指導要領に関わること  
 ⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                  |
|--|------------|------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>40 | 機関名<br>高知県教育センター |
|--|------------|------------------|

※ 3.1については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  ②  ③  ④  ⑤

(2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
①  年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                    |
| ③     | 特別支援教育における外部専門家の活用についての研究 |
|       |                           |
|       |                           |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ① 2位 ⑥ 3位 ⑦

① 研究協力校 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                 |
| ①                | ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくり、学級づくりの実践 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |  |
|---------------|--|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                   |
| ②             | 高等学校における特別な教育的ニーズの必要と生徒への支援及び授業づくりに関する研究 |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                  |
|--|------------|------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>41 | 機関名<br>福岡県教育センター |
|--|------------|------------------|

※ 3.1については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  ②  ③  ④  ⑤

(2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
①  年

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容                                      |
| ①     | 通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり            |
| ①     | インフルエンザ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実（合理的配慮提供のSteps） |
| ①     | インフルエンザ教育システム構築に向けた通常の学級における学びを支える方途        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ② 2位 ⑥ 3位 ③

① 研究協力校 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                   |
| ①                | 主体的・対話的な深い学びにつなげるユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                                       |
|---------------|---------------------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                |
| ④             | 知的障害特別支援学校における教科等の考え方（あわせた指導）の在り方を旨めて |

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|   |            |                  |
|---|------------|------------------|
| 第3分科表<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>42 | 機関名<br>佐賀県教育センター |
|---|------------|------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①  ②  ③

①調査・研究している(した) ②予定はない

- (2) 研究の方法(期間)をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容   |
| ⑤     | 小・中学校におけるインクルーシブ教育システム構築のための取組-PDCAサイクルの考えを取り入れた合理的配慮の実践 |
|       |  |
|       |  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究

- ③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

- ⑤その他(インクルーシブ教育システム)

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

①  ②  ③  ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入)

1位 ①

2位 ⑦

3位 ⑧

④

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
| ②                | 発達障害のある児童生徒に対する、個々の教育的ニーズに応じた支援を提供するために、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用した指導の在り方 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

- ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

- ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

- ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

- ⑥その他( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                     |
|---------------|---------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容              |
| ②             | 高等学校における通級による指導の在り方 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

- ②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

- ④学習指導要領に関わること

- ⑤その他( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|   |            |                  |
|---|------------|------------------|
| 第3分科表<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>43 | 機関名<br>長崎県教育センター |
|---|------------|------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①  ②  ③

①調査・研究している(した) ②予定はない

- (2) 研究の方法(期間)をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容   |
| ①     | 発達障害のある児童生徒に対する、個々の教育的ニーズに応じた支援を提供するために、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用した指導の在り方         |
| ③     | 特別支援学校等の発達障害のある児童生徒に対する、個々の教育的ニーズに応じた支援を提供するために、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用した指導の在り方 |
| ③     | 特別支援学校等の発達障害のある児童生徒に対する、個々の教育的ニーズに応じた支援を提供するために、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用した指導の在り方 |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級

- ③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

- ⑤その他( )

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

①  ②  ③  ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさに順に記入)

1位 ②

2位 ⑦

3位 ⑥

⑦

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもに対する具体的な支援方法

- ⑤教員との課題意識の共有 ⑥校内の協力体制 ⑦保護者の理解と承諾

- ⑧医療機関、相談機関との連携

- ⑨その他( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
| ②                | 上記1(3)の調査・研究「見守りシートなどができ」活用ハンズブック～発達障害等への気づきを促し支援をつなぐへの作成の充実 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

- ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

- ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

- ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

- ⑥その他( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                                     |
|---------------|-------------------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                              |
| ④             | 特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

- ②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

- ④学習指導要領に関わること

- ⑤その他( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                   |
|--|------------|-------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>44 | 機関名<br>熊本県立教育センター |
|--|------------|-------------------|

※.3については、調査・研究実施後の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①  調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
①  年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |            |
|-------|------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容     |
| ②     | 自立活動の指導の充実 |
|       |            |
|       |            |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

①  ②  ③  ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配布 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位  ②  ③  ④

2位  ⑤  ⑥  ⑦

3位  ⑧  ⑨  ⑩

① 研究協力校、研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |               |
|---|---------------|
| ① | 基本的な授業力を高めること |
|---|---------------|

- ①ユニバーサルデザインの視点をもった授業づくり、学級づくりに関すること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |            |
|---|------------|
| ④ | 自立活動の指導の充実 |
|---|------------|

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること  
②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること  
④学習指導要領に関すること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                  |
|--|------------|------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>45 | 機関名<br>大分県教育センター |
|--|------------|------------------|

※.3については、調査・研究実施後の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①  調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
①  年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                       |
| ②     | 特別支援学級における個別の指導計画の質の向上に関する研究 |
|       |                              |
|       |                              |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

①  ②  ③  ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配布 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考え

1位  ②  ③  ④

2位  ⑤  ⑥  ⑦

3位  ⑧  ⑨  ⑩

① 研究協力校、研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |                                    |
|---|------------------------------------|
| ② | 学習上、生活上の表出する困難の要因分析と適切な指導方法の<br>設定 |
|---|------------------------------------|

- ①ユニバーサルデザインの視点をもった授業づくり、学級づくりに関すること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること  
⑥その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |                           |
|---|---------------------------|
| ④ | 特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの実現 |
|---|---------------------------|

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること  
②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること  
④学習指導要領に関すること  
⑤その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>個人・研究事業の利便をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答<br>(①、②の回答の場合は②以降へ) | 機関番号<br>46 | 機関名<br>宮崎県教育研修センター |
|--|------------|--------------------|

※ 3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の利便をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法 (期間) をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年数

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |        |
|-------|--------|
| 研究の内容 | 具体的な内容 |
|       |        |
|       |        |
|       |        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入)

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ⑤ |
| 2位 | ① |
| 3位 | ⑧ |

① 研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                       |
| ②                | 表態把握の方法に関する研究および把握した内容と指導内容、指導方法とのつながりに関する研究 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関する研究  
② 発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関する研究  
③ 合理的配慮にかかわること ④ 校内体制の整備や協力体制の充実に関する研究  
⑤ 特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関する研究  
⑥ その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |  |
|---------------|--|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                 |
| ④             | 特別支援学校や特別支援学級における主体的・対話的で深い学びの実現に関する研究 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
② 高等学校に関する研究 ③ 家庭・学校・関係機関・地域との連携に関する研究  
④ 新学習指導要領に関する研究  
⑤ その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                     |
|--|------------|---------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>個人・研究事業の利便をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答<br>(①、②の回答の場合は②以降へ) | 機関番号<br>47 | 機関名<br>鹿児島県総合教育センター |
|--|------------|---------------------|

※ 3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の利便をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

(2) 研究の方法 (期間) をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年数

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容                                      |
| ②     | 見方や関わり方など、認知機能に困難さのある児童生徒を対象とした指導の在り方に関する研究 |
|       |   |
|       |   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他 ( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択 (最大3つ)

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他 ( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えられている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入)

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ② |
| 2位 | ④ |
| 3位 | ⑤ |

① 研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他 ( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |  |
|------------------|--|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容   |
| ②                | 通常の学級における発達障害のある児童生徒を対象とした研究については、特に、指導員・保育所及び高等学校を視野に入れていきたいと考えている。 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関する研究  
② 発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関する研究  
③ 合理的配慮にかかわること ④ 校内体制の整備や協力体制の充実に関する研究  
⑤ 特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関する研究  
⑥ その他 ( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |        |
|---------------|--------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容 |
|               |        |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
② 高等学校に関する研究 ③ 家庭・学校・関係機関・地域との連携に関する研究  
④ 新学習指導要領に関する研究  
⑤ その他 ( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                     |
|--|------------|---------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>48 | 機関名<br>沖縄県立総合教育センター |
|--|------------|---------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の利便をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                    |
| ④     | 支援の必要とする児童生徒のアセスメントと授業づくり |
| ⑤     | 全校種におけるキャリア・マネジメント調査研究    |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他( )  
全校種

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入)

1位 ①

2位 ⑥

3位 ⑤

④ 研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究

具体的な内容

④ 授業づくりや支援体制を継続的につなげていくための体制づくり

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究

具体的な内容

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                    |
|--|------------|--------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>49 | 機関名<br>千葉市養護教育センター |
|--|------------|--------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の利便をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法(期間)をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。(最大3つ)

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                 |
| ②     | 通級指導教室におけるタブレットの効率的な利用 |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他( )

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択(最大3つ)

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他( )

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入)

1位 ①

2位 ②

3位 ③

①研究協力校、研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他( )

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究

具体的な内容

② 自閉スペクトラム症(傾向)の児童生徒への適切な指導(SST及び学力補完)

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他( )

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究

具体的な内容

① 経験年数の少ない職員の実質の向上と学校支援体制の構築

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他( )

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                               |
|--|------------|-------------------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>50 | 機関名<br>川崎市総合教育センター-特別支援教育センター |
|--|------------|-------------------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  調査・研究していない(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
④ 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                            |
| ⑤     | 特別支援教育にかかわる調査研究（小中高等学校・特別支援学校を含む） |
|       |                                   |
|       |                                   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（特別支援教育）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ①

2位 ②

3位 ③

- ①研究協力校・研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |                   |
|---|-------------------|
| ③ | 具体的な内容<br>事例収集と周知 |
|---|-------------------|

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                           |
|---------------|---------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                    |
| ②             | 高等学校における特別支援教育にかかわる取組の具体例 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                        |
|--|------------|------------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>51 | 機関名<br>横浜市特別支援教育総合センター |
|--|------------|------------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  調査・研究していない(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答  
④ 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |           |
|-------|-----------|
| 研究の内容 | 具体的な内容    |
| ②     | 巡回型指導の研究  |
| ⑤     | 特別支援教室の活用 |
|       |           |
|       |           |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ①

2位 ②

3位 ③

- ①研究協力校・研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|   |                   |
|---|-------------------|
| ③ | 具体的な内容<br>指導事例の収集 |
|---|-------------------|

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |               |
|---------------|---------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容        |
| ①             | ニーズに応じた専門性の向上 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|   |            |                    |
|---|------------|--------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人への教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>52 | 機関名<br>名古屋市教育局センター |
|---|------------|--------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答  
1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                   |
| ①     | 特別支援教育に関する校内研修の実践を目指した研究 |
| ②     |                          |
| ③     |                          |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に關わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に關わる研究  
③特別支援学校に關わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に關する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ⑥

2位 ⑤

3位 ④

③ 子どもの診断

④ 子どもの実態把握

⑤ 子どもに対する具体的な支援方法

⑥ 教員との課題意識の共有

⑦ 校内の協力体制

⑧ 保護者の理解と承諾

⑨ 医療機関、相談機関との連携

⑩ その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                                      |
|------------------|--------------------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                               |
| ②                | 学習における困難さに対する関心に基づき、各教科等の専門分野での研究の推進 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |  |
|---------------|--|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                       |
| ④             | 障害の状態等に応じた手立てについて、教科等の専門分野との共同研究の推進に関する研究・調査 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること  
②高等学校に關わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に關わること  
④新学習指導要領に關わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|   |            |                             |
|---|------------|-----------------------------|
| 第3分科委<br>調査・研究に関する事項<br>一人への教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>53 | 機関名<br>京都市総合教育センター（総合育成支援課） |
|---|------------|-----------------------------|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答  
1 年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入。（最大3つ）

|       |  |
|-------|--|
| 研究の内容 | 具体的な内容   |
| ②     | 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業（通級による指導担当教員等専門性向上事業）       |
| ④     | 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業（特別支援教育の視点で関連した学校経営課題研究等事業） |
| ③     | 学校における医療的ケア実施関係事業                                    |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に關わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に關わる研究  
③特別支援学校に關わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に關する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位 ⑥

2位 ④

3位 ③

④ 子どもの診断

⑤ 子どもに対する具体的な支援方法

⑥ 教員との課題意識の共有

⑦ 校内の協力体制

⑧ 保護者の理解と承諾

⑨ 医療機関、相談機関との連携

⑩ その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |   |
|------------------|---|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容  |
| ①                | 授業のユニバーサルデザイン化について、具体的な指導方法や学習内容の工夫などの調査・研究。また、授業のユニバーサルデザイン化だけでなく、教育全体を見ていく教育のユニバーサルデザイン化を進める。 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                            |
|---------------|----------------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                     |
| ①             | 特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に關わること  
②高等学校に關わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に關わること  
④新学習指導要領に關わること  
⑤その他（ ）



第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                          |
|--|------------|--------------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>56 | 機関名<br>北九州市立特別支援教育相談センター |
|--|------------|--------------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |        |
|-------|--------|
| 研究の内容 | 具体的な内容 |
|       |        |
|       |        |
|       |        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位

2位

3位

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究

具体的な内容

①

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究

具体的な内容

①

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                          |
|--|------------|--------------------------|
| 第3分科案<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>57 | 機関名<br>福岡市教育委員会 発達教育センター |
|--|------------|--------------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロッダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロッダウンリストから該当する年数を選択し回答

年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |   |
|-------|---|
| 研究の内容 | 具体的な内容  |
| ④     | 児童生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業実践<br>～特性に基づいたICTの活用を通して～ |
| ⑤     | 特性に応じた「自ら判断・行動する力」を育てる防災教育                        |
|       |   |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位

2位

3位

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究

具体的な内容

①

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究

具体的な内容

①

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |  |
|--|------------|--|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>58 | 機関名<br>静岡市特別支援教育センター<br><small>※調査票が、機関には、電子で送付される場合があります。</small> |
|--|------------|--|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答  
① 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

| 研究の内容 | 具体的な内容                           |
|-------|----------------------------------|
| ①     | 通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態調査 |
| ④     | 読み書きの苦手な子どもの実態調査                 |
| ④     | 通常学級と特別支援学級の交流及び共同学習の実践的研究       |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入）

1位

2位

3位

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                                |
|------------------|---------------------------------------|
| ②                | より傾向の児童（読み書きに困難がある子ども）の早期発見及び具体的な支援方法 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                     |
|---------------|----------------------------|
| ③             | 個別の教育支援計画の効率的な策定、運用の在り方の研究 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |  |
|--|------------|--|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>59 | 機関名<br>浜松市教育総合支援センター<br><small>※調査票が、機関には、電子で送付される場合があります。</small> |
|--|------------|--|

※.3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

①  ② 予定している ③ 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答  
① 年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

| 研究の内容 | 具体的な内容  |
|-------|---|
| ①     | ・科学的根拠に基づいた特別支援教育を学校全体として推進するための包括的システムの構築<br>・障害者生活や授業におけるカーンや手間の明確化 |
| ④     | ・学校支援の方法、教員への研修化<br>・自動支援の方法、教員への研修化                                  |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関する研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関する研究  
③特別支援学校に関する研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（  ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

①  ②  ③  ④

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす  
⑤ その他（  ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさを順に記入）

1位

2位

3位

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断  
④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法  
⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾  
⑨医療機関、相談機関との連携  
⑩その他（  ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                           |
|------------------|----------------------------------|
| ①                | 学校風土、学級風土を向上するための教員の意識や技能の向上について |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（  ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                 |
|---------------|------------------------|
| ①             | 特別支援学級、通級指導教室担当教員の専門向上 |

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（  ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                     |
|--|------------|---------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>60 | 機関名<br>新海市立総合教育センター |
|--|------------|---------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答  
年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |        |
|-------|--------|
| 研究の内容 | 具体的な内容 |
|       |        |
|       |        |
|       |        |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ⑦ |
| 2位 | ⑥ |
| 3位 | ⑤ |

① 研究協力校、研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                |
| ①                | 基礎的・系統的な授業づくり研修の内容・方法 |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                     |
|---------------|---------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容              |
| ①             | 専門性を向上させるための研修内容・方法 |

①特別支援学級、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）

第42回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（京都府大会）聴取事項調査票

|  |            |                   |
|--|------------|-------------------|
| 第3分科会<br>調査・研究に関する事項<br>一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用<br>の在り方 | 機関番号<br>61 | 機関名<br>相模原市教育センター |
|--|------------|-------------------|

※.3については、調査・研究実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答  
(①、②の回答の場合は②以降へ)

① 調査・研究している(した) ② 予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答  
年数

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 研究の内容 | 具体的な内容                   |
| ④     | ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業改善 |
|       |                          |
|       |                          |

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究  
③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究  
⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

|    |   |
|----|---|
| 1位 | ⑦ |
| 2位 | ⑥ |
| 3位 | ⑤ |

① 研究協力校、研究協力員の決定 ② 研究協力校との連携の在り方 ③ 子どもの診断  
④ 子どもの実態把握 ⑤ 子どもに対する具体的な支援方法  
⑥ 教員との課題意識の共有 ⑦ 校内の協力体制 ⑧ 保護者の理解と承諾  
⑨ 医療機関、相談機関との連携  
⑩ その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|                  |                                   |
|------------------|-----------------------------------|
| 課題、今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容                            |
| ④                | 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の構築について |

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること  
②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること  
③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること  
⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること  
⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

|               |                  |
|---------------|------------------|
| 今後必要と考える調査・研究 | 具体的な内容           |
| ①             | 通級指導教室での指導・支援の充実 |

①特別支援学級、特別支援学級、通級指導教室に関わること  
②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること  
④新学習指導要領に関わること  
⑤その他（ ）